
退官に寄せて

井上先生の退官記念に寄せて

正野 良幸

私は、2011年4月に京都女子大学・家政学部・生活福祉学科の助教として着任いたしました。介護福祉領域の教員として大学に入りましたが、介護の領域をどのように学生に伝えていけばよいか、迷っていました。

そのような時、前期の授業科目である「介護総合演習Ⅲ」を井上先生ご担当のクラスと合同で実施させていただき、授業内容や方法、実習のあり方など、多くのことを教えていただきました。また、実習巡回での指導方法やカンファレンスの内容など、介護実習の重要性を学ぶことができました。私が担当している実習先の最終カンファレンスと一緒に同行していただき、カンファレンスの進め方、議論の内容、学生の報告や実習指導者との関係づくりなど、これから私一人で実施していくために必要な技能を丁寧に教えていただきました。

実習が終わった後も、後期の授業では事後指導として、合同で実施していただきました。実習前と実習後では、事後指導の発表を通じて学生の変化が見られました。Ⅲ段階の実習では、学生がケアプランを作成し実施することが目標とされます。各自のケアプランがどのように作成されているのか、実施後の利用者の反応はどうであったのか、利用者の尊厳は守られているか、安心して安全で安楽な介護ができているかなど、利用者の生活の視点から着目していく大切さを学ぶことができました。

現在、私は一人で授業や実習巡回担当させていただいております。しかし、このように成長することができたのは、井上先生のご指導があったからこそ、学生に実習の重要性や面白さを伝えることができていたのではない

かと感じております。

次に、2012年9月22日(土)・23日(日)に「第20回日本介護福祉学会大会」を本学で開催いたしました。井上先生は、この学会の会長をされており、大会長でもありました。約1年前から準備に取り掛かり、大会テーマの設定やホームページの立ち上げ、シンポジストへの依頼など、井上先生を中心に介護教員メンバーが協力し合って準備を進めていきました。

9月に入ると、毎日のように会議を開き、学会開催に向けて話し合ってきました。井上先生のリーダーシップが発揮され、その結果、多くの会員の方や介護現場で働く方、地域住民の方や学生など、予想していた数字を大きく上回る参加人数となり、無事に学会大会を終えることができました。

私は、これまで学会で発表することは何度か経験しておりましたが、開催する側に立ったのは初めての経験でした。井上先生のもとで学会大会を開催することができ、学会運営や渉外、会場設置や予算管理など、開催に必要なノウハウを学ぶことができました。この経験は、私がこれから教員として仕事をしていく上で、大切な学びであったと思います。学会大会という貴重な経験をさせていただき、感謝しております。

最後になりましたが、井上先生と一緒に働かせていただいた2年間は、私にとって忘れられない時間です。これからもご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。本当に、ありがとうございました。